

経営情報科学研究科 博士後期課程 経営情報科学専攻

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

学則に定める期間在学し、所定の単位を修得し、博士論文の審査及び学力試験に合格すること。さらに、以下に掲げる素養を持つ者に博士(経営情報科学)の学位を授与する。

- 1 ビジネス社会の未来を進化・変革するという長期的視点に立ち、学術の発展に寄与し得ること。
- 2 研究者、高度専門職業人として高度な研究能力と問題解決能力を備え、自立して研究や問題解決ができること。
- 3 国際性に深い関心を持ち、外国語によるコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を備えていること。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

卒業認定・学位授与の方針に掲げた高度な専門知識、研究能力、問題解決能力、自立性、国際性を備えた研究者・高度専門職業人を育成するため、以下のとおり教育課程を編成のうえ実施する。

1 高度な専門知識の修得

経営システム分野では、「経営システム特殊研究」を中心に、経営戦略、マーケティング、生産管理、品質管理、人的資源管理、ロジスティクス、会計学などの研究分野を配置する。ITを通じた、企業活動の研究や資金・財務の流れを高度なレベルで解明・分析する能力を育成する。情報システム分野では、「情報システム特殊研究I/II」を配置し、統計情報科学、ネットワーク技術、データマイニング、知能情報コンピューティング、情報セキュリティなどの各専門分野における知識を修得する。これらを通じて、産業界の諸問題に対応できる経営学及び情報科学における高度な専門知識を養う。

2 研究能力と問題解決能力の修得

「研究指導I～Ⅲ」を配置し、定期的な研究講義、研究討論、研究発表を通じて、高度な思考力と問題解決能力を養成する。研究テーマの決定から方法論の研究、開発、実践、評価に至るまで、段階的な指導を行い、国内外の国際機関、著名な出版機関、研究学会誌などへの論文投稿を奨励し、研究成果の発信を促進する。

3 研究者・高度専門職業人としての自立性の涵養

全ての配置科目及びゼミ・研究室活動における指導を通じて、高度な経営及び情報システムの研究・設計・構築を一人称で推進することが出来る自立性の涵養を目指す。

4 国際性と学術貢献の促進

全ての配置科目及びゼミ・研究室活動における国際的な研究動向の把握と外国語による研究発表を奨励し、グローバルな視点から研究を進める能力を育成する。学術発展に寄与する独創的な研究の遂行を支援し、国際的な学術コミュニティへの積極的な参加を促す。

学位論文に係る評価の基準

①課程博士学位論文

○ 審査委員の体制

- ・大学院教授会において、当該専攻から研究指導教員を含む3名以上の教員を選出し、学位審査委員会を組織する。
- ・学位審査委員会に主査と副査を置き、主査は研究指導教員から選出する。
- ・学位審査委員会が必要と認めた時は、本学大学院の他の専攻又は他の大学院等の教員等を学位審査委員会に加えることができる。

○ 審査の方法

- ・専攻で開催される論文公聴会にて、学位審査委員により審査を行う。

○ 審査項目及び評価基準

博士論文の評価は、以下の項目の基準によって行われる。

- ・新規性：研究の内容にオリジナリティがあるか

- ・進歩性：先行論文を十分に渉猟し、先行研究に対して十分に進歩した位置づけとなっているか
- ・有用性：研究の成果が社会的課題の解決や実務への応用に十分寄与するものであるか
- ・論理性：問題提起から結論の導出までの議論が論理的に展開されているか
- ・明確性：明解かつ適切な表現で論文が書かれているか
- ・信頼性：専攻で開催される論文公聴会で相応しい発表、検討が成されたか

上記項目に加え、次の3つの要件を満たす必要がある。

- ・博士論文に関する専門分野の全般的知識を有し、独立した研究者として研究を遂行できているか
- ・博士論文の内容が当該研究分野における国内外の学会等でも十分に学術的な価値が認められるものであるか
- ・博士論文の研究内容に社会的意義があり、社会貢献に資するものであるか

○ 学位論文が満たすべき水準

- ・上記の審査項目を総合的に評価し、全て満たすと学位審査委員会が判断し認められた場合、博士論文として合格とする。

②論文博士学位論文

○ 審査委員の体制

- ・大学院教授会において、当該専攻（世話専攻）から研究指導教員（世話教員）を含む3名以上の教員を選出し、学位審査委員会を組織する。
- ・学位審査委員会に主査と副査を置き、主査は研究指導教員（世話教員）から選出する。
- ・学位審査委員会が必要と認めた時は、本学大学院の他の専攻又は他の大学院等の教員等を学位審査委員会に加えることができる。

○ 審査の方法

- ・専攻で開催される論文公聴会にて、学位審査委員により審査を行う。
- ・1外国語以上の諮問を行う。

○ 審査項目及び評価基準

博士論文の評価は、以下の項目の基準によって行われる。

- ・新規性：研究の内容にオリジナリティがあるか
- ・進歩性：先行論文を十分に渉猟し、先行研究に対して十分に進歩した位置づけとなっているか
- ・有用性：研究の成果が社会的課題の解決や実務への応用に十分寄与するものであるか
- ・論理性：問題提起から結論の導出までの議論が論理的に展開されているか
- ・明確性：明解かつ適切な表現で論文が書かれているか
- ・信頼性：専攻で開催される論文公聴会で相応しい発表、検討が成されたか

上記項目に加え、次の3つの要件を満たす必要がある。

- ・博士論文に関する専門分野の全般的知識を有し、独立した研究者として研究を遂行できているか
- ・博士論文の内容が当該研究分野における国内外の学会等でも十分に学術的な価値が認められるものであるか
- ・博士論文の研究内容に社会的意義があり、社会貢献に資するものであるか

○ 学位論文が満たすべき水準

- ・上記の審査項目を総合的に評価し、全て満たすと学位審査委員会が判断し認められた場合、博士論文として合格とする。

(1) 専門分野

博士後期課程では、複雑化する経営情報科学における高度な専門の研究を担い、博士前期課程修了者よりもさらに高い分析能力や問題解決能力を有する高度専門職業人や、自立して研究の発展に取り組む研究者を養成する。

専門分野	内容／担当教員
経営システム特殊研究	経営システム関連分野には、いかに企業などの組織体を長期的に発展させるかという観点から、ITによる情報システム中心の「IT経営情報システム」の研究が盛んに行われている。その一方で、近年ではITに抛らない「非IT経営情報システム」の研究、さらにはITと非ITの相補作用からなる「経営情報システム」の研究へと総合化の途を歩み始めている。ゆえに、博士後期課程では「経営システム特殊研究」と「研究指導」の履修を通じ、いかなる院生であっても、上記の潮流を踏まえて重点研究を担うことや、あるいは資金・財務の流れを把握しつつ、自由な発想で新機軸の研究開発を担うように支援されるか、このような支援をベースとする指導教員と院生の関係強化を図ると同時に、院生が自立してさまざまな関係を構築し関係拡張ができるような指導にも力を入れることが博士後期課程編成の特色となる。 具体的な教育研究分野として、「経営システムの教育研究」、「品質マネジメント・システムの教育研究」、「生産マネジメント・システムの教育研究」、「ヒューマンリソース・マネジメントの教育研究」、「ロジスティクス・システムの教育研究」、「マーケティング・マネジメントの教育研究」、「オペレーションズ・リサーチの教育研究」、「ベンチャー・ビジネスの教育研究」、「経営戦略の教育研究」、「経営分析の教育研究」、「監査論の教育研究」、「原価計算の教育研究」などについて、基礎から応用までのテーマを取り上げる。
	石井 成美、後藤 時政、加藤 里美、服部 洋児、吉成 亮、仁科 健、丸山 恭司、山田 裕昭、柊 紫乃、羽田 裕、水谷 聡志、野中 尋史、福澤 和久
情報システム特殊研究	博士後期課程では、高度情報システム設計、構築、運用が出来るように、大学院研究グループごとの活発な定期的研究講義、研究討論、研究発表を行う。ここでは国内外での先端的な情報システム研究・技術を取り上げ、教員と院生との密接な教育研究鍛錬の場とする。この過程で博士研究のテーマを決定して、テーマ解決のため方法論の研究、開発、実践、評価が必要になる。ここでの研究成果は国内外の国際機関、著名な出版機関、研究学会誌などに投稿することを奨励義務付ける。最後にこれらの発表論文をまとめた博士論文の提出が必要となる。このように情報システム分野での高度な思考訓練とシステムの構築、運用が出来る経営情報技術者・知識人の育成が博士後期課程の課程編成の特色となる。 具体的な教育研究分野として、「情報システムの統計情報科学の教育研究」、「情報分散・ネットワーク技術の教育研究」、「データマイニングの教育研究」、「知能情報コンピューティングの教育研究」、「情報システムの信頼性・セキュリティの教育研究」、「情報理論の教育研究」、「情報センシングの教育研究」、「コンピュータ・グラフィックス論の教育研究」、「システム・セーフティ論の教育研究」、「コンピュータビジョンの教育研究」などについて、基礎から応用までのテーマを取り上げる。
	伊藤 雅、小野木 克明、鈴木 晋、中村 栄治、森本 正志、伊藤 暢浩、河辺 義信、菱田 隆彰、水野 慎士、塚田 敏彦、北坂 孝幸、山本 貴史、内藤 克浩、徳久 良子、澤野 弘明、松河 剛司、梶 克彦、内種 岳詞、玉森 聡

(2) 科目一覧

	科目 コード	科 目 名	単位数		開講期	備 考
			必修	選択		
特殊研究	B8201	経営システム特殊研究Ⅰ		2	1・2年次	
	B8204	経営システム特殊研究Ⅱ		2	1・2年次	
	B8202	情報システム特殊研究Ⅰ		2	1・2年次	
	B8205	情報システム特殊研究Ⅱ		2	1・2年次	
		計	0	8	修了要件4単位以上	
研究指導	B8101	研究指導Ⅰ	4		1～3年次	
	B8102	研究指導Ⅱ	4		1～3年次	
	B8103	研究指導Ⅲ	4		1～3年次	
		計	12	0	修了要件12単位	

(3) 履修方法

- ・特殊研究は、専攻する専門分野の科目を修得してください。
- ・研究指導は、3年間継続して受けるものとします。

(4) 修了要件

- ・博士後期課程に3年以上在学していること。
- ・所定の単位を修得していること。
- ・必要な研究指導を受けていること。
- ・博士論文の審査及び試験に合格していること。
- ・博士後期課程の在学期間に関しては、大学院において優れた業績をあげたと認めた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとします。

(愛知工業大学大学院学則第26条第1項ただし書きの規定による在学期間をもって博士前期課程を修了した者については、「当該課程に1年以上」とあるのを「大学院に3年(博士前期課程における在学期間を含む)」と読み替えるものとします。)

【所定の単位】

特殊研究	4単位 以上
研究指導	12単位
合計	16単位 以上